



みち 古道が紡ぐ物語



天誅組の足跡をたどって ①決起編

～堺から維新 魁さきかけの地・五條へ～

歴史上初となる尊王攘夷派志士による武装蜂起として、その後の倒幕運動に大きな影響を与えた「天誅組の変」から、今年で150年。そこで本稿では、新たな時代の到来を信じ、捨石となって奈良県内各地で幕府軍と戦った志士たちの足跡を追いながら、現在のまち並みを描きます。

今回は、大阪府堺市から奈良県五條市に至る、古道沿いに点在する天誅組ゆかりの地を巡ります。

倒幕の機運高まる幕末、天誅組決起す

■幕府の権威は失墜

黒船の来航で、鎖国を破られた幕末期の日本は、開国か、攘夷じょうい（外国の排除）か、国を二分した政治闘争に発展。孝明天皇の勅許を得ないまま日米修好通商条約を締結（1858年6月）するなど、強権を振った大老・井伊直弼なおすけは、強引な手段が恨みを買って暗殺された（1860年3月、桜田門外の変）。また、和宮かずのみや（孝明天皇の皇妹）の將軍家への降嫁を推進し公武一和を目指した老中・安藤信正も、尊王攘夷派の浪士によって襲撃され負傷（1862年1月、坂下門外の変）するなど、幕府の権威は地に落ちつつあった。

■大和行幸みことのりの詔と「皇軍御先鋒」結成

1863（文久3）年8月13日、尊攘派の急先鋒である長州藩と、それに気脈を通じた三条実美さんじょうきねとみら急進派公家が孝明天皇に迫り、大和行幸の詔が下る。天皇が春日大社、神武天皇陵等に巡幸し攘夷を祈願、倒幕に持ち込むというものである。

これに呼応し、土佐脱藩浪士の吉村虎太郎は、松本奎堂けいどう、藤本鉄石（後の三総裁）ら同志とともに、過激な言動で知られる弱冠19歳の尊攘派公家・中山忠光を主将に戴き、大和国で天皇親征を迎える「皇軍御先鋒（天誅組）」結成を計画する。

■河内勢との合流のため水郡邸にこりへ

詔の布告から一夜明けた14日、京都・方広寺に集結した吉村ら39名の志士は、伏見港から淀川を下り大阪に停泊の後、16日早朝、堺に上陸。西高野街道沿いに南下した一行は、途中狭山藩か

ら物資の協力を取り付け、河内国向田村（現・富田林市甲田）

に急いだ。この地の有力者で、かねてから決起を盟約していた同志

水郡善之祐にこりぜんのすけと合流するためである。

寺内町で有名な富田林市の中心部から、国道170号線（東高野街道）を南西に下り、住宅街を少し入った所に、趣ある民家が立ち並ぶ一角がある。昔ながらの狭い路地の先に、往時の門構えもそのままに、水郡邸は建っている。

■三日月市・油屋から大和国五條へ

16日深夜、水郡ら河内勢の同志を加えた一行は、東高野街道沿いにさらに南下。17日未明、三日月市村（現・河内長野市三日月市町）の旅宿・油屋に到着する。

現在、この場所は、



天誅組義士上陸の碑（堺市）



水郡邸（富田林市）



油屋跡（河内長野市）

河内長野ロータリークラブにより史跡として整備されている。また、この油屋跡の前を通る高野街道を活かして、河内長野市では、「いにしへの道復活プロジェクト」と題したまちづくりを行っている（詳細は2013年4月号の「観光まちづくりレポート」に掲載）。

17日早朝に油屋を出立した彼らは、南朝に忠義を尽くした楠木正成の菩提寺、観心寺に立ち寄り、戦勝祈願を行った。千早峠を越え、大和国五條の地に入った一行は、岡八幡宮で最終準備を整えた。

■五條代官所襲撃

17日夕刻、大砲の音を合図に、天誅組は代官所の門を破り内部に突入。領地の明け渡しを拒否した代官・鈴木源内を殺害。そしてこの代官所襲撃と前後して、「天に代わり幕府を誅する」意味で、彼らは自身のことを「天誅組」と呼ぶようになったと言われる（あるいは、天朝に忠義を尽くす「天忠組」とも）。

天誅組は、代官所を焼き払うと、近くの桜井寺（五條市須恵）

に本陣を置いた。同寺前の交差点が「本陣」と名付けられたのはこれに由来する。

桜井寺境内の天誅組本陣跡（右）と本陣交差点（下）



天誅組行軍の道程



■皇軍から一転、逆賊に

襲撃成功に沸き立ったのも束の間、翌日事態は急変する。過激な尊攘派の行動を憂いた孝明天皇が会津藩を中心とする公武合体派に密命を下し、京から長州藩および急進派の公家が一扫されたのである（八月十八日の政変）。大和行幸は中止され、「皇軍御先鋒」の大義を失った天誅組は一転、逆賊となり、窮地に立たされる。（来月号につづく）

（太田宜志）

○五條市民俗資料館（長屋門）

もとは、天誅組の変終結後、新たに幕府が建て直した五條代官所の長屋門（正門）で、その後五條市が資料館として整備したもの。天誅組にまつわる事物を展示している。

○「維新の魁・天誅組」保存伝承・顕彰推進協議会

上記資料館の運営を通じて、天誅組の保存伝承・顕彰を推進し、もって地域の活性化を目指す団体。天誅組の足跡をたどるバスツアー開催等、活動は多岐にわたる。



五條市民俗資料館（左）

同資料館内部（右）

天誅組関連時系列表

とき	江戸・京での主な出来事
1858年2月	老中・堀田正睦、孝明天皇に条約勅許を願い出る
6月	大老・井伊直弼主導のもと、日米修好通商条約を締結。無勅許調印として、激しい非難を浴びる
9月	安政の大獄で、前水戸藩主・徳川斉昭ら処罰
1860年3月	桜田門外の変、水戸藩士らにより井伊直弼暗殺
1861年10月	和宮、将軍降嫁が決定、公武合体を目指す
1862年1月	坂下門外の変で、老中・安藤信正が襲撃され、負傷
7月	尊攘派志士による「天誅」と称した要人襲撃（テロ）が横行
1863年4月	幕府、5月10日に攘夷決行を約束する（実行せず）
天誅組の足取り	
1863年8月	吉村虎太郎ら、中山忠光を主将として、天皇の大和行幸を迎える「皇軍御先鋒」の計画を進める
8月13日	大和行幸の詔、布告
8月14日	志士39名、京都・方広寺に集結、伏見港から淀川を下り、水路で大阪へ
8月15日	大阪で武器を調達後、長州への勅使と偽り出航、洋上で方向転換し、堺へ
8月16日	堺上陸後、西高野街道を南下。狭山藩から物資供出を受け、河内勢と合流。深夜に水郡邸を出発
8月17日	未明、三日市・油屋に到着。早朝に出発、千早峠越え。岡八幡宮で戦闘準備後、五條代官所を襲撃。桜井寺に本陣を構える
8月18日	八月十八日の政変。長州藩勢力および三条実美ら急進派公家は京から追放。大和行幸の詔は白紙に戻る